十帖源氏

三

ちるきく
花ちる里
すまよ
あうし
みをたて
ゆきとよ
せさる屋
ゑ河よ世

内閣文庫
帝國圖書館藏

秋

源氏二条の院にうつりてのち八月ばかりの夕の空まことに秋かぜはけしくなりぬれば虫の音もとりあつめたるばかりにて草むらの花のいろいろ色まさりたるにつけてもかの人のかたみにとおぼしいでぬ日なしとはいとかなしけれど源氏大将の君はさすがにいとはかなくもてなしたまひしかばいとかくまでとはおぼしよらざりしを思ひのほかにかくはかなくなりにしかばいとあはれにかなしくなつかしきものにおぼしのたまひしかばいとあはれにかなしくなつかしきものにおぼしのたまひしかばいとあはれにかなしくなつかしきものにおぼしのたまひ

源

伊勢

神かぜいたきもてはらをきものを
いりあひまちえてわるさうさを

源

たまくしげあけてはいかさ物の
ふたりねしをあさけなるひなまとうの枝

源

わすれもの
わすれいかはよ
ちとせをしたのもりの松
伊勢

大かたの梅のうらとはなりぬ
なくうぐひすを野へのまつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弥五

大石内蔵助殿

中宮

源

弥五郎殿

中宮

源

[illegible]

いまいくせをかなけきつるん

中臣

なくさのうらなみよりてゝ

[illegible]

源八雲抄後鳥羽院

せてきこゝろあらはさまをもてあそぶる

とおもすらんものよれすれなる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第七

[illegible]

[illegible]

源乃はゆゝしかりさかよ

けさてゝ中あのそらかく[illegible]

かまてはあ[illegible]

[illegible]

秋おりゆゝしぶきこれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏物語絵巻

源氏物語絵巻

源氏物語絵巻

源氏物語絵巻

おりつのぼりてまうでまほ
しくよばれてまうでまほ
しけれつるさのちもなほうう
あのうすすてもつるにのあるうぶを
なんてのものしられやうう
雲月のついたちは岡まうでまほ
つきうう大ぶのうう中えへ
わきしけれもなきんへう
ゆきあれそとなのもん
なりつるほといらけきとゆきあう
きよそのふあうらした

十二月十よかちうう中宮九八海へまうの
ぶ手ぶのしやうみまうもさあくのうりう
さけぶ大ぶのれうしいみうやのうての
日八中宮わうれ事ぶけけうどんまて世とそもき
うよんくおうう　源
月のすむもを井をうけてきこえる
うのれやうよなうやまうん
実
大ふのうぶふつけていうへう
いけうこの世をそもきうけへき
年かうれ八四日うう雨やうう中宮いれ堂
乃西のうのあまうすうとうれうわうせ

[illegible]

添

なるうるわしのすみとしろかりう

まげたるてるく枯うしまま

中文

あるまうしのあうしにきうう枯よ

たううう海のあつうしたう

と三條右大臣ものぞのとりの人人大とのく

ちぢれ毛をあり世をのれ子の女ものつまて

なるに中ゐ五ゐあるあまうさもせて添へうう

行ううれるのうしびうにたう咲く春秋

乃花うもゐ中ゐの学八のりううて枯秋

たうこうう中ゐにけ枯うて

それすとけうひうけうう枯り

うううの花うみひうとをみる

添

けううして けうに花いうの春

ううまうしうきううほうく

りんの花ゐううゐうて春ゐうう里にゐて

しゐうとゐうにひまうう紙とゆううう

添ううゐうう弟ううを右大臣ものひ

枯て海のたうかうしのひ行へときうを

たうけううてうう大右よんせううりんの春ゐ

まのうくゐうう海いに秋のううよかれうう

相模の国

花散里　源氏宰相

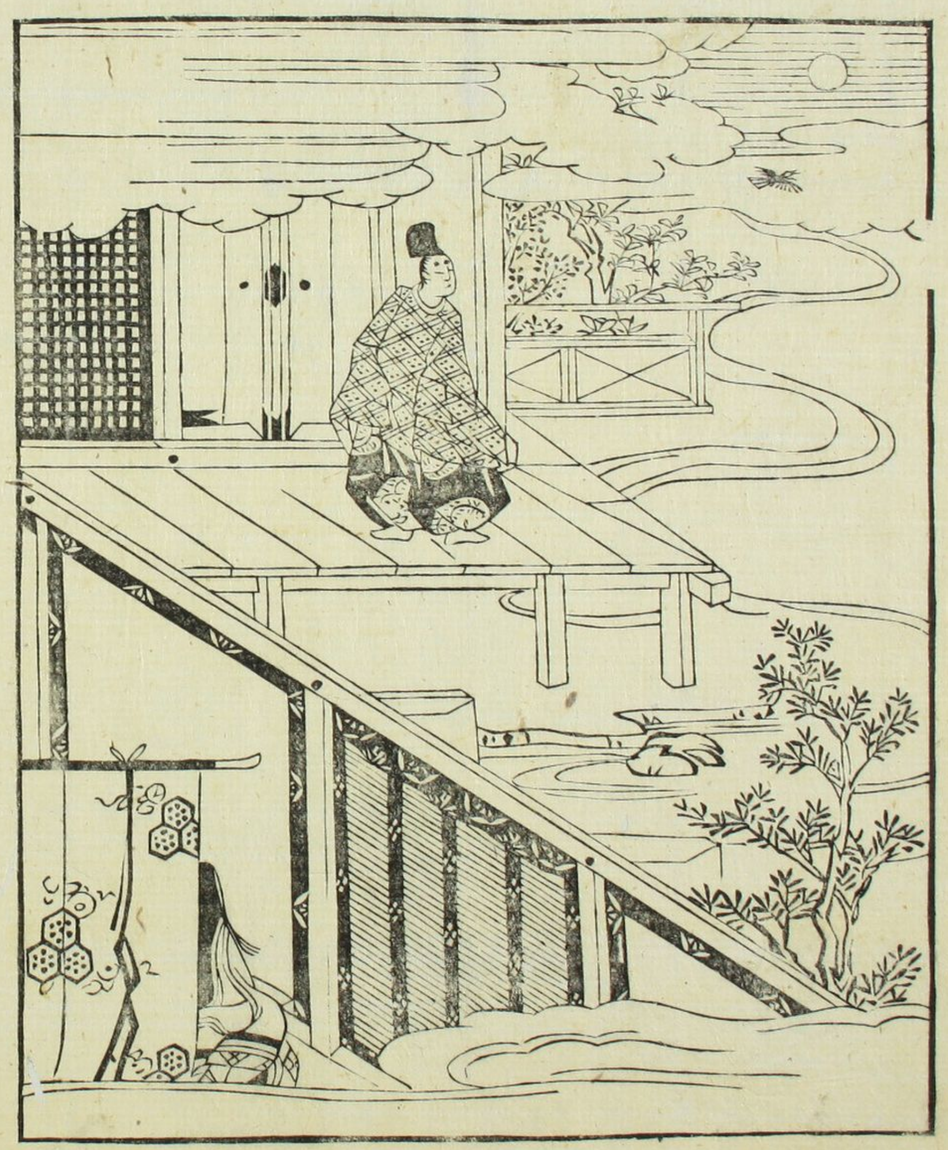
きいけのそんいんのゝちも、ちゝ世とゝ院のうせたまひて、
源ゝりてゝのくらいにつきたまひしのゝちの三の君
花ちる里とゝいひしかのゝ源氏のゝ
月毎の里ゝなりしゝ嵯峨中川の
住まひのゝ小家ゝ荒ゝしくはあれど、
てゝ昔のゝ忍びてとまりたまひし所ゝ也。惟光の朝臣
源　ちゝのみやのゝ御ぞ所ゝ也。れの郭公
ゝのゝかゝしゝ聞ゝのかゝなしゝ

源

ほとゝきすゝ
わるゝかゝなゝ
はゝのゝ雨ゝ
まゝ山ゝ
乃月ゝ
やゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

源

花ちるゝ
人ゝ
ゝ



次廣　源世五ツ三月より次の年まで

なつのあかつきはまだ月のあるころ（夏ノ曙ハ猶月）

中ようつくかはをはしのかたちにつけて世の

みうをあつけまとはいはんかたなくうれすごくて堂の

あるよはまてよなんと宮ばかりくひさ

しけたんとうなとなるとはいはるる雲のとれ思ひるば

きなるはしらんしらんもなるものの

つまなるへきてはりうをんきれをんとくぐき

ゑ（蛙）へはりうをきてはりうへ点のまうをあひてのはと

らひつをあうをうの三月世のあまりうの紅紙をあれ

給へ仏供七八人ゝ雨よまぐれたるのやさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源

源

源

なつやまの月を雲とうつしてみる

波

春ふかみ岩ぢをこえてきこえけり

いけのうちまさしやうの花をこそ

ときこえつる山ほとゝぎす

生命数にかぎりありとやせいをつくしみをつくしてのこるさまを

きこえくやしかりけるゆめ

春

ちりてこそゆくへもしらぬ

花のなごりやうらめしかりけん

源うしの北のよへ

いけ世のなりをはてゝ

今りをへ

ひとこと

おくりをかへてゆくへ

まつ

ちりぬるかぜ

船とまりの日のうちにはなつ

まぐさの時ちりぬ

かりをまつ

ゆきをしのぶ

山ぶみのうまいなをこそ

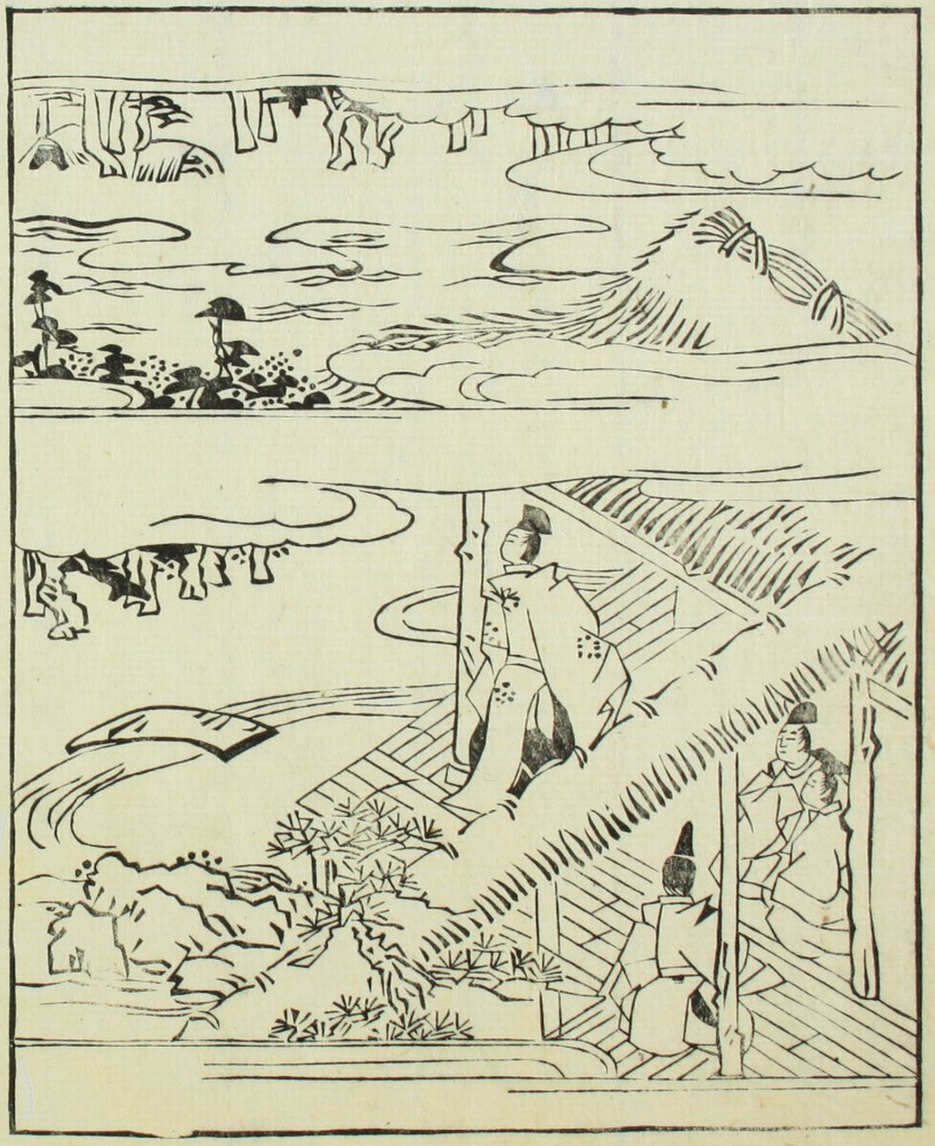
なつやまのそこ

初夏の中納言

ちりぬるかぜ

ちりぬるかぜ

ちりぬるかぜ



みち山ちかくなりて人まれなる所ありて
ものさびたる寺のまへ
ものすごき森の木の葉乃ちる
ものさびたる寺の門へ入て
杉しの木のあるものとやもいふらん
きまよひてうろうろ
四方のうみのはてしなき中にぞ
寺のわらべ
あらしぞまの風のみちをゆきて
しらやまやいづくなるらん
今宵
月色
さびしき風にて雪降
ものすごくなりつゝ

九月ばかり

浦うたくあまくにつむ藻のまに
くゆる世ゆゑかくれをあさ
むしろのうらのあをそをせ
うらんのきかくむ神よらくへ見よ
なくらをつるつるのいろよ
伊勢人の四つのいわまいに使
うきやうらいもあのあまをおりいやま

日

そはてしてをまのうらわく
いせびやきりいのくよはてして
いつのなきいわうまうもり
伊勢人乃るるのうへくかまりこ

源氏

日

うきやいかりて乃くまーものの
あまをはむなけるのうにたられて
いかまくすまのうらよなるん

若ち

伊勢まくるの新はをうつ
をくるの乃かれ袖りか

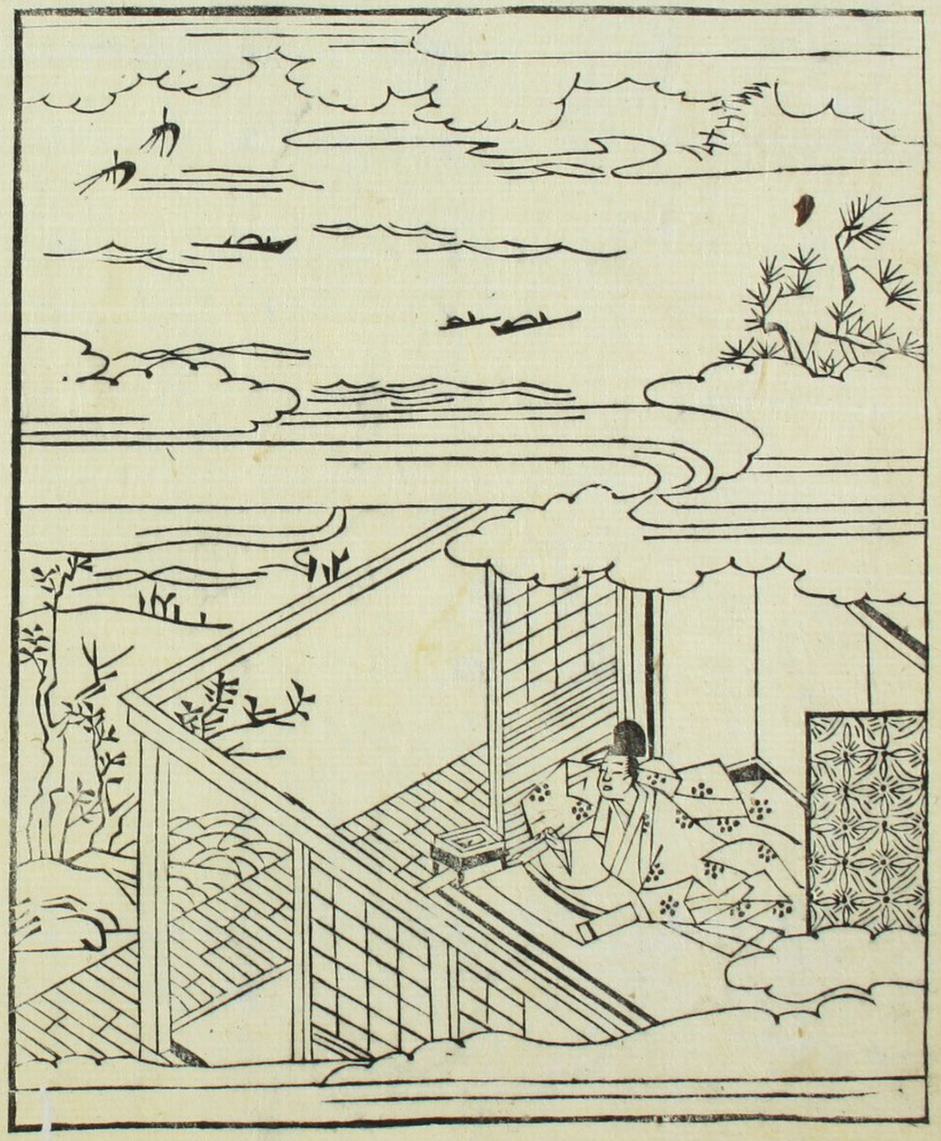
源氏

はてしまくるの新は海はまくとを
けまをけ平の中物をれせ源とゆくいる
うくはくるくはかうてみなくあれなる
めいかるあの新くうをなすくきる
をくりてなるねよまくうくはい
なまくりはやくうん

義法

武子左衛門惟光

宗右近



八月の末やうやうこの病もとかりて
源
みすかりそめにまゐりたるもむかしのこと
月のこやこいとしのまもとも
うしとのこひしへりしもいかなりてと
ゆくすえをきかふるめるこ独りか
まこと大武ふりけるむまもあらしてかのあい
あるそのかりの大ふるておるとしてゆすてひとも
こちらいかけこまやせてゆてあるのあいきん
のかりやまゆるよんかりそくるそよりそよりに帰れやそこそこ
ゆすくこりこのちくせんのやこそ年ろ立節ろ
とうくしてきこよりあらるの年こあひんこ

源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はぐさなどべあがたひつ
かるるかうかのあるるあるるあるやよ
ひるの日けるんみるきまるへきと宮ゆきに
海るるゆるるて岩るる山岡よかるい宮ある
るんの御るじゆるあるよるとるるるんぐるのもて
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるて
ひるかるるるるやいあるるるるるるるるるるるる
やるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるん
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるて
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるを

れるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるけるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるを海るるるを海るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

明石　文治郎

[illegible]

二条院

[illegible]

葉の上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入道[illegible]じむすめ[illegible]

宮[illegible]時[illegible]

[illegible]

[illegible]

おうぎをはつかつて
きらきらぬのとりはのあるひ
ゑのこころをとゝ
むすこ
ゝけるさまをよんだるそ
ゝのいとくハをめ
かたんをもつて弁なるもの
おもしろ思ひたるうん
原
いとをもろうをあをなやむれ
御ゝやいとゝ人のこと
むすこ思ひたんのゝやゝ御よいうう
まゝゝの人乃きうなやまん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢よりも変なるものをいろいろとそなへまつりて
してそのかさ寸尺の程なるとかを縫ひ
たるくまりをなるべく手ぬぐひ
みるものもそれなれども
うるくもおもひけるを縫ひ
れば
はるばる波いたえしものをと
みるとなのたやすくもせぬものか
なりくおもひけるに七月廿日の夜よりみな
ねて寝入りおきせんでくるしめる事
と思ひしとなんいはるるなんとを
おりまけくいはるるなんとを

懐姙

まことに家にたゆたひてなやみくるしみてで
うふまれて母きよわらひ行てさうへきさまも
母家へむかへんとて　源
はやひいらわらもをとかく
けりいかるすそそよなひうん
望　かきはかりてあまのたくもの里のふも
いまからひるきうしうしにせで
きんらんかさあるかるまそのかるんをの
望　なかりしかるしけるものをとける一おとを
つをもの行やかけてきのうん
源　あまそのかるみよちうる中はをの
きくへとおとふかるうけるうん
はをへのうてさいう　源
おそくたけもあるのたるはの
おるうのうひるみくおりひやるる
望　年をつるときやもあれてうきはの
家つるかるうやをうへまし
入道　うはよたるかるひるを接うを
きかるけうやんのいうん
源　かるみるそかるをうけるあ事は
日りとつるんゆはるりは
入道　世をうにさるきりむをぬて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かすがの神のひかりしるしか
花ちるまでのかぜにはせそこえつる

澪標　源氏七八才

澪標　源氏

源氏の君の御子の誕生なけれはて神無月より八月まで大臣殿也
なく大臣なりけるのくれて二月に長月
元服　冷泉帝　東宮　源氏の君　藤壺　源氏の君　左大臣
よい嘉吉殿　藤壺　源氏の君　左大臣
なくやまのうらの住吉　摂津　住吉

へきらく宮なくなりて大臣殿の御子の誕生
乃家和中の御子　藤壺の御子
よ御子せんとのつきなく二条院の御子
なりしかはなくあれとも
よ姫君生まれたまふ　明石の三月十日
らんとおもひて源氏の君
ものなくあるとて
ものなくあるとて
わやうよりけさは源氏の君
まひとりのくるせでなるのうへ姫君の
ものうつくしくまうんとやせい源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆ

ゆ

源独吟

[illegible]

たちのくしの海のあかつきの

わすれぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓬生

源氏の六条院にまうでたまへるなり

末つむ花の盛りなるを、[illegible]
大きなる木どもの、[illegible]
[illegible]
後の世のことなどいとかしこう思ひ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

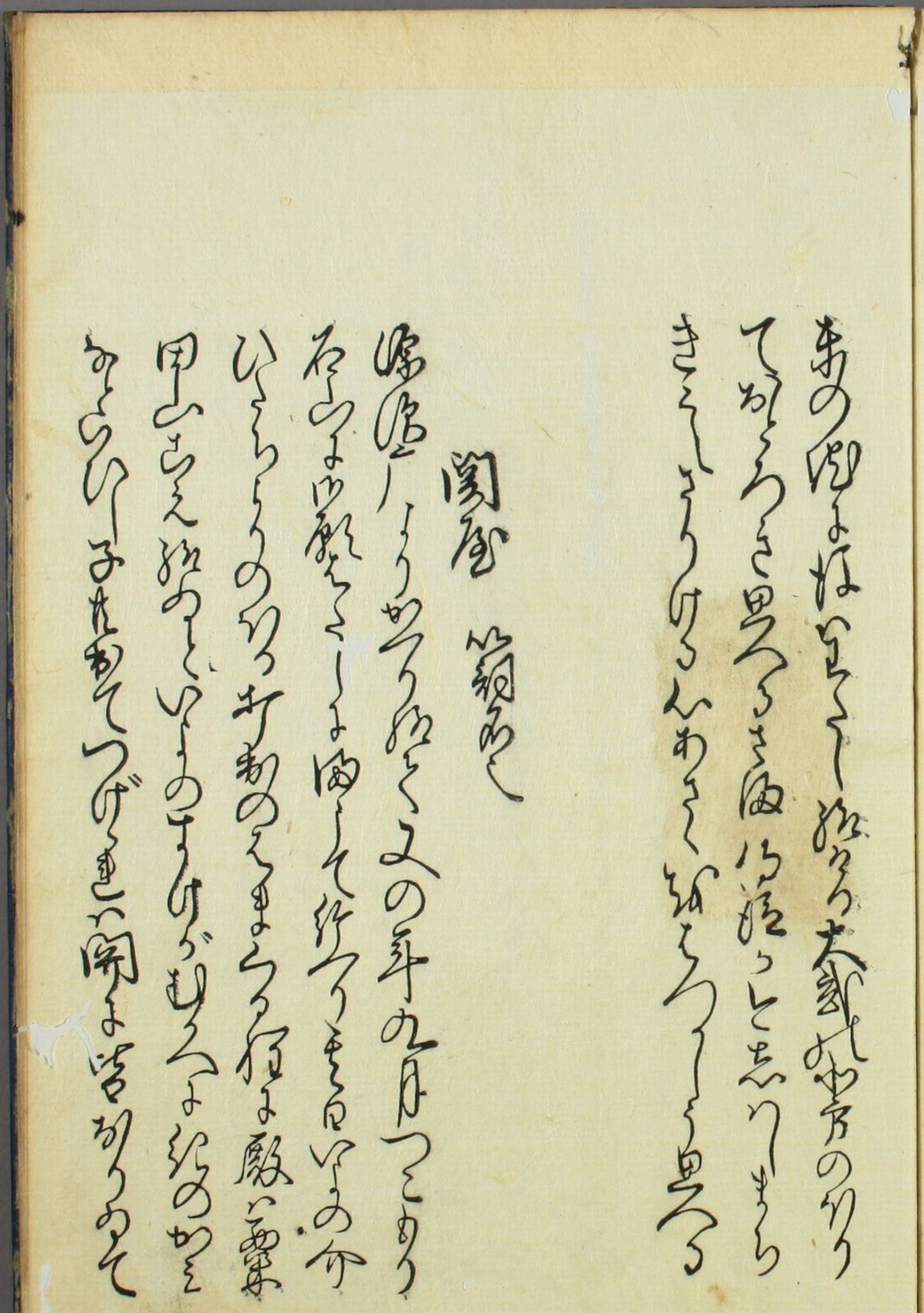
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

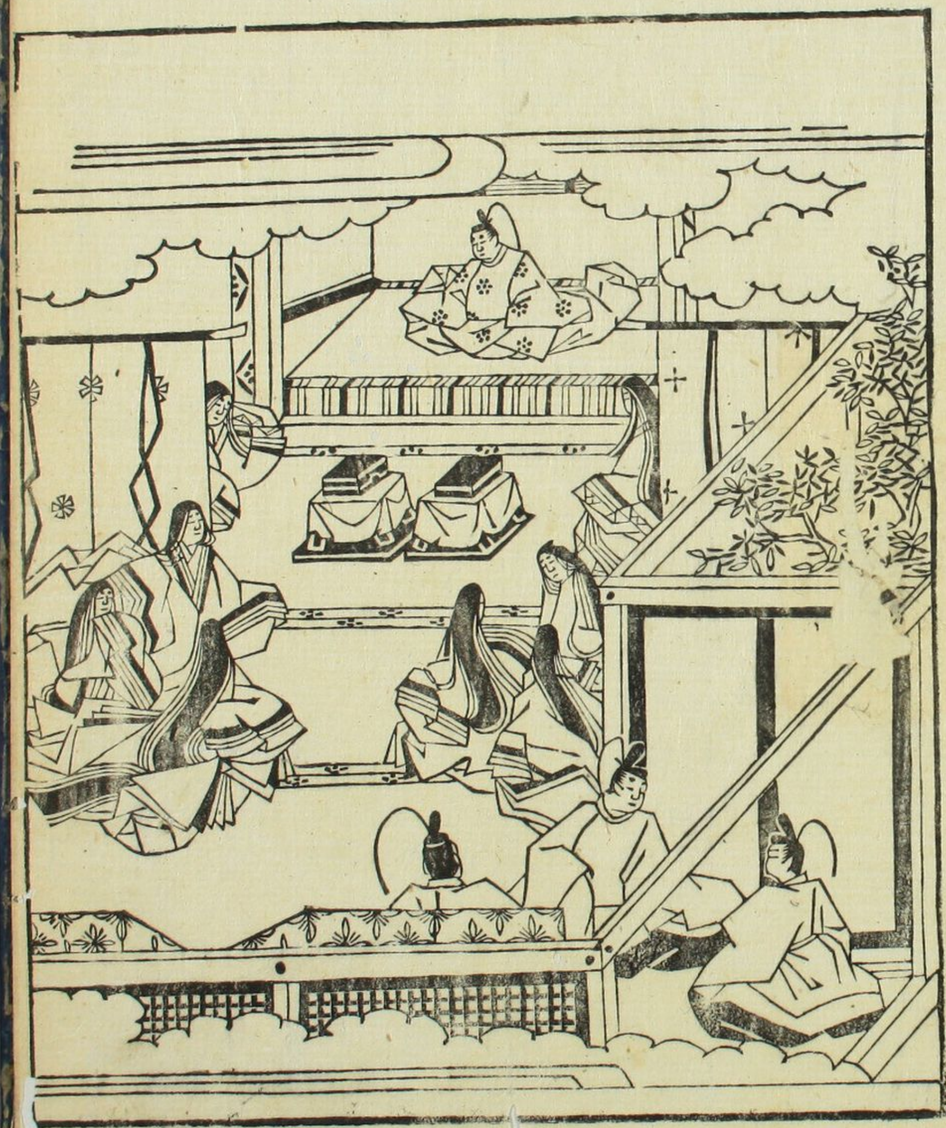
[illegible]

繪合　源氏物語

前栽の方へ入給ふ　若君中宮に
申給ふ源氏殿をとりかつれて出給
ふを宮も流石にうちわらはれて
みたまふ　中略　乃ち
きれいちよとへ
そうけき中にて神やいさり
給ふ　源氏
給ふ故なるべしとかまへて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]